

平成27年に特に注意を要する病害虫

水稻の紋枯病および疑似紋枯病

近年、北海道でも夏の高温傾向が続いています。そのため、これまで北海道ではあまり問題となっていなかった水稻の紋枯病の発生が増加しています。また、紋枯病とよく似た疑似紋枯病も発生が確認されており、こちらにも注意をしてください。



イネ紋枯病



紋枯病により倒伏した稲



疑似紋枯病
(赤色菌核病)



疑似紋枯病
(褐色菌核病)

小麦のなまぐさ黒穂病

小麦のなまぐさ黒穂病は平成25、26年に発生地域が拡大し問題となっています。病気になった小麦はくさい麦になっていしまうので、発生した畑の麦は収集施設に入れないことが大切です。また、発病した麦を麦わらなどに再利用する事も危険です。



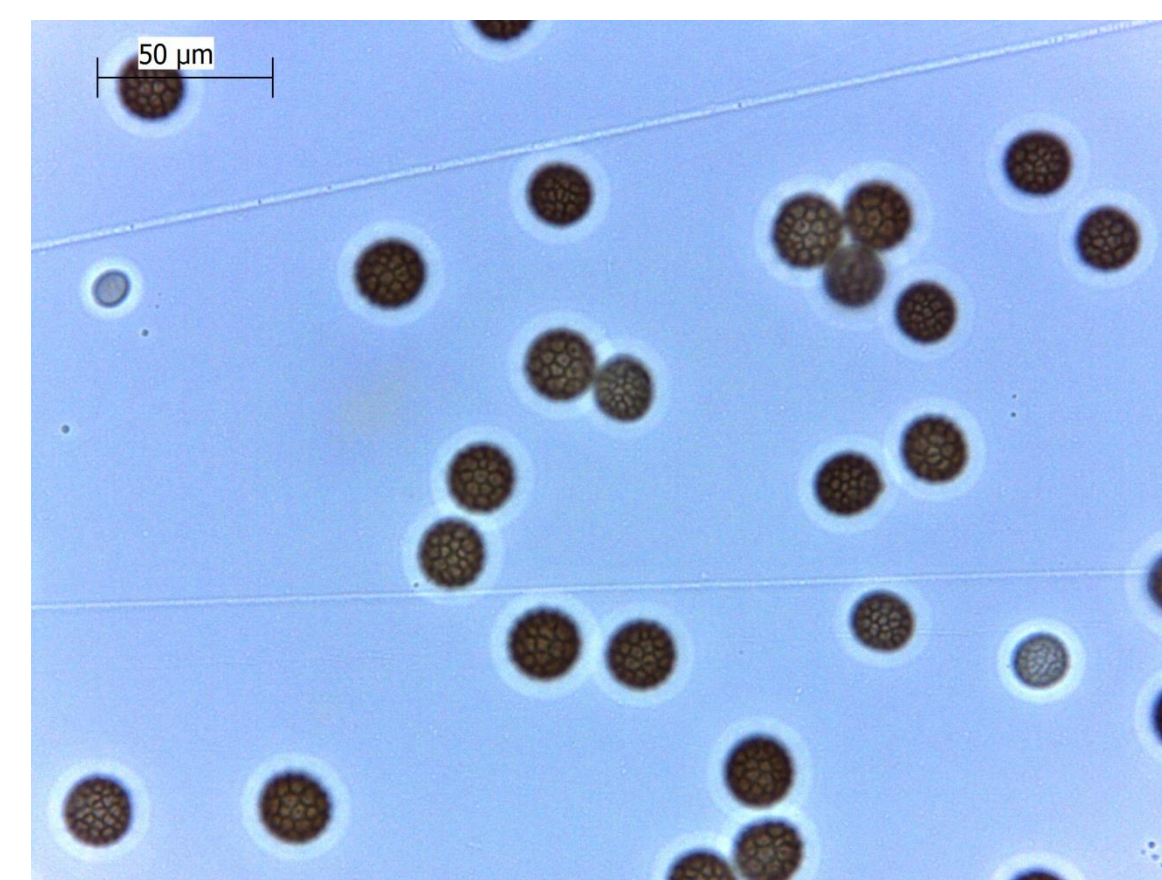
コムギなまぐさ黒穂病



発病した株は
少し短くなります



発病穂には病原菌の
胞子が充満しています



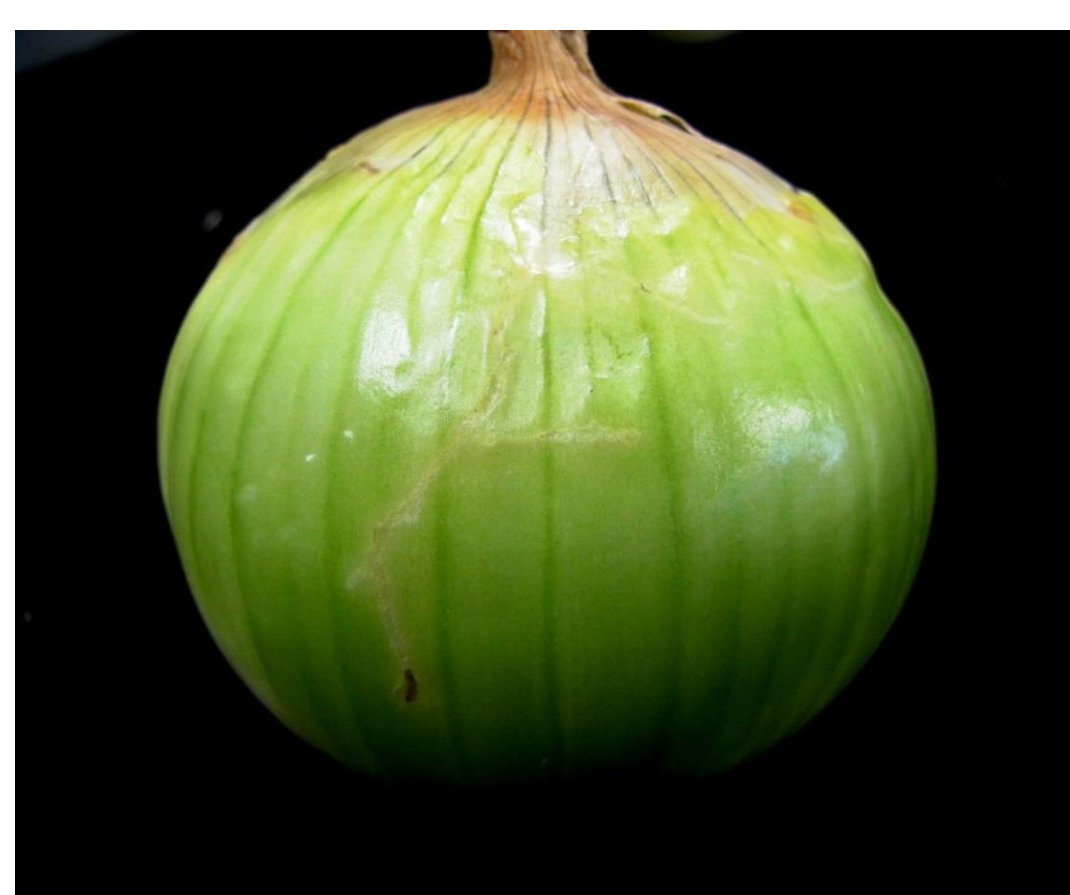
なまぐさ黒穂病菌
の厚膜胞子

たまねぎのネギハモグリバエ

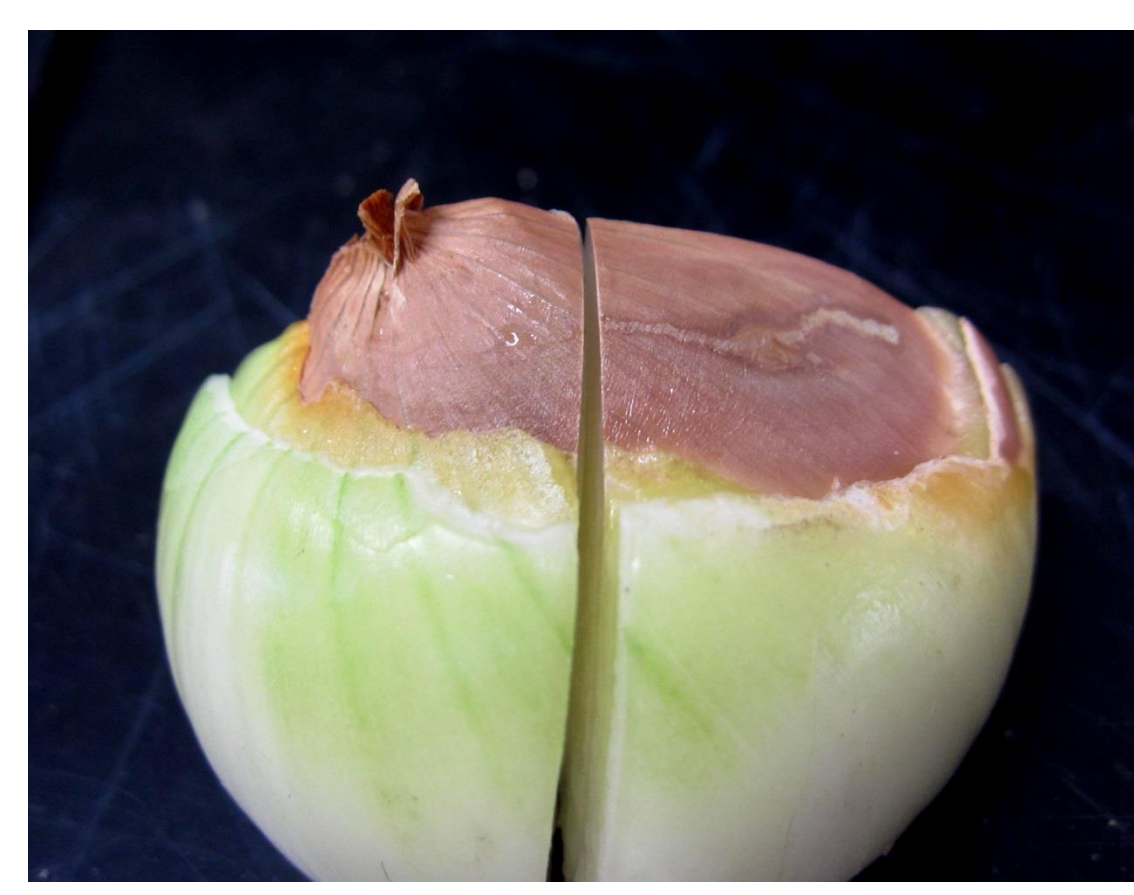
幼虫がたまねぎの葉にもぐって白い線状の食痕つけるだけではなく、たまねぎのりん茎（食べる部分）にも潜って品質を低下させます。この虫の成虫は葉に縦に並んだ白い点状の食痕を付けるのが特徴で、この成虫の食痕を目印に防除を行ってください。



ネギハモグリバエ
成虫の食痕



りん茎への侵入被害



りん茎への侵入に
よる腐敗症状

連絡先 Contact

中央農業試験場
病虫部予察診断グループ
0123-89-2290
Central-agri@hro.or.jp

注意すべき病害虫の詳細は、北海道病害虫防除所の
ホームページでご確認ください